

クルマには「愛」が付く

竹岡 圭

Kei TAKEOKA

今年の夏も大渋滞でしたね。若者を筆頭にクルマ離れとか何とか、寂しい話が聞こえてきて久しいですが、それホント？って聞きたくなるくらい、夏休み中の道路はしっかり渋滞していました。

目立って増えたのは「わ」ナンバー。つまり、レンタカーやカーシェアリングのクルマたちです。自分で所有はしないけれど、フレキシブルにクルマを使う人は確実に増えた！と断言したくなるくらい、「わ」のクルマをたくさん見掛けました。

それには、レンタカーを借りたり、カーシェアリングをしたりするのが、スマホ操作で簡単にできるようになり、レンタル費用が安いものも出てきたから、という理由が大きいのかもしれませんが「何も全部自分のものにしなくても、使う分だけその都度払えばいいんじゃない？」的な考え方が、当たり前になってきたことも影響している気がします。

というのも、クルマよりもっと身近なアイテム、例えばお洋服だって、晴れ着のみならず普段着も、毎月配送でレンタルなんていうシステムがある時代ですからね。必要な分だけその都度借りれば良いという文化は、もはや特殊なことではないのかもしれませんが。所有しなければ、置いておく場所も必要ナシ。駐車場だってクローゼットだっていらぬわけですから、確かに効率的といわれればその通りです。

そうは言っても私の場合、旅行先ではレンタカーを借りるものの、日常生活となると、カーシェアリングはどんなものかお試して1回使ってみただけ。レンタルのお洋服は落ち着かない……といった具合で、その都度文化にはまだまだなじめそうにありません。特にクルマは、自分の愛車をまったく所有せずに、全てレンタカーやカーシェアリングで賄う……というのは、今のところ考えられないんですね。

なぜにそう思うのか……？ よくクルマには所有する喜びがあるからといわれますが、それだったら一生のうちで一番大きな買い物といわれる「家」だってそうなりますよね。でも私は大人になってからは、ずっと賃貸住宅暮らし。自分の家を所有したいかと改めて考えてみても「賃貸で家賃をずっと払い続けるよりお得なら悪くはないけれど、所有してしまうとメンテナンス費用もかかるし、別に賃貸でもいいかな」というくらいのも。家には所有に対する執着はありません。

じゃあ何で……？ その違いは、クルマには「愛」が付けられるからだと思うんですよね。例えば、愛妻、愛犬、愛猫とは言いますが、愛机、愛椅子とは言いません。一生のうちで一番大きな買い物といわれる家だって、愛は付きません。でもクルマには「愛車」という具合に、愛の冠が付けられるんですよ。

「愛」が付けられるか否かは、心を通わせられるかどうか？ だと思います。クルマは人と心を通わせながら、一緒に走るもの。だからこそ交通社会という言葉があり、みんなが楽しく過ごしていくために、安全というキーワードが一番底辺に当たり前に存在しているんだと思います。その都度心を通わせるという考え方も、もちろんアリですが、私は愛の冠が付けられるものとは、やっぱりじっくりお付き合いしたいなあ〜と、改めて思うのであります。

モータージャーナリスト／原稿受理 2017年8月31日